



Top Message

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
当社は第124期（2019年4月1日～2020年3月31日）を終了いたしましたので、その概況についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **大西 亮**

当社は創立以来、産業用包装容器メーカーとして事業の拡大に務め、業界・地域の発展に貢献してまいりました。「常にお客様への感謝の心を持ち、品質保証と物流の革新を通して、社員の成長を求め、社会に貢献する」という企業理念のもと、社員が一致団結し、独立企業としての研鑽を重ねることで、顧客の信頼を獲得するとともに、社業および社員の生活発展を通して、社会貢献を目指していきます。

Since 1935

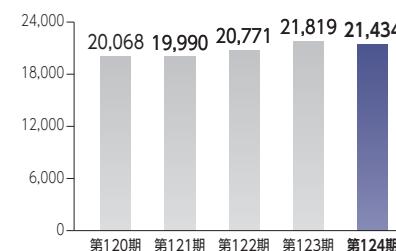
創立100周年の未来に向けて

袋は、内容物を使用すれば本来の役目を終えるものですが、内容物を保護するだけでなく、お客様の製品を包装している間はおお客様の顔となります。このことにプライドと責任を持って、100周年の未来に向けて、長期持続的な企業価値の向上を目指していきます。

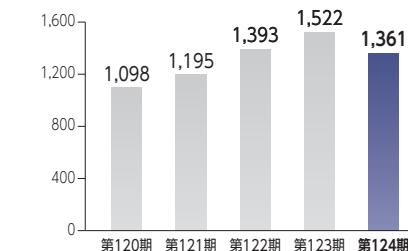
今期の業績

当社グループの今期の業績は、売上高21,434百万円(1.8%減少)、営業利益1,361百万円(10.6%減少)、経常利益1,505百万円(9.8%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益1,035百万円(10.3%減少)となりました。

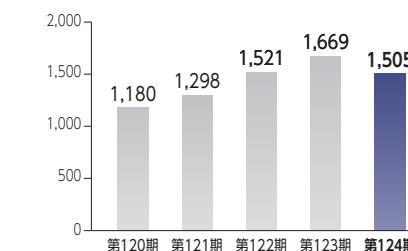
売上高 (単位:百万円)



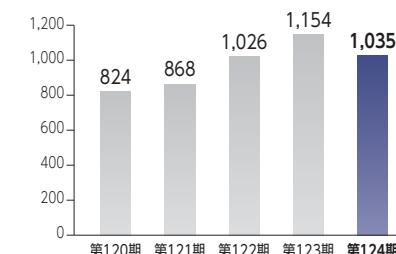
営業利益 (単位:百万円)



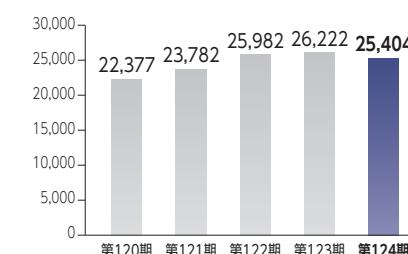
経常利益 (単位:百万円)



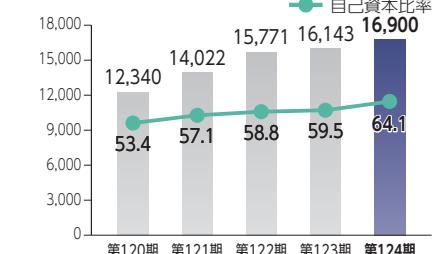
親会社株主に帰属する
当期純利益 (単位:百万円)



総資産 (単位:百万円)



純資産 (単位:百万円) / 自己資本比率 (単位:%)



来季の見通しと課題

次期につきましては、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、4～6月期は消費が減少して大きく景気後退することが確実視されています。その後景気がいつ回復に向かうかは、現時点では見通しが困難ですが、2021年3月期は通年でのマイナス成長が避けられないかもしれません。景気の動向は当社グループの顧客の生産活動に直結するため、当社の収益も非常に厳しいものになることが予想されます。しかし、当社グループの製品が使われるのは、主に産業の基本素材や農業の分野であり、一定の売上は確実に獲得できます。厳しい事業環境にあっても、設備投資は計画通りに進め、基礎収益の確保とともに将来を見据えた体制づくりに努めてまいります。

当社グループの次期の業績は、外部環境の予測が困難で、変動要素が多い現時点では、減収減益を覚悟せざるを得ず、右表の通りを見込みます。景気の落ち込み次第でさらに下振れる可能性は否定できませんが、グループの総力をあげてこの水準は確保する意気込みで運営してまいります。

<来季の見通し>

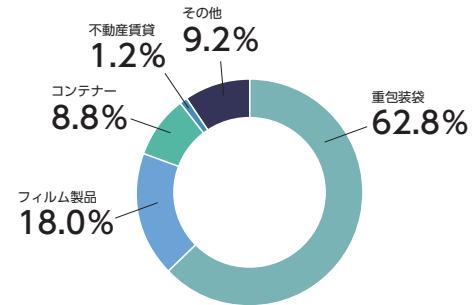
売上高	19,640百万円 (伸長率△8.4%)
営業利益	875百万円 (伸長率△35.7%)
経常利益	1,016百万円 (伸長率△32.5%)
親会社株主に 帰属する当期純利益	700百万円 (伸長率△32.4%)

セグメント情報

売上高

21,434
百万円

重包装袋	13,451百万円
フィルム製品	3,862百万円
コンテナ	1,887百万円
不動産賃貸	258百万円
その他	1,975百万円



事業概況

重包装袋

当社のクラフト紙袋の売上数量は前期比で4.4%の減少でした。米麦袋の減少は小幅でしたが、自動車関連の生産減少などの影響で主力の合成樹脂用途が大きく減少したほか、化学薬品、砂糖・甘味用途などが減少しました。ポリエチレン重袋の売上数量は主要な用途である肥料用が不振で、前期から10.7%の大幅減少、中型袋は微減でした。タイ昭和パックス(株)と九州紙工(株)も売上数量を減らしましたが、山陰製袋工業(株)は微増でした。重包装袋の主原料であるクラフト原紙の価格は、2018年夏に値上がりして以降、安定して推移しました。

フィルム製品

当社のフィルム製品の売上数量は、産業用は前期比で1.5%の増加、農業用は5.9%の減少で、合計では1.2%の減少となりました。産業用では、発泡フィルム、アスベスト隔離シート、ポリスチレンフィルム「エスクレア」等が伸びました。農業用では7～9月期までは前年同期を上回っていましたが、10～12月期以降、全般に数量が伸びず、通年で減少となりました。原材料であるポリエチレン樹脂とポリスチレン樹脂は、ナフサ価格の変動や中東情勢の変化を受けて、不安定な気配となりましたが、ポリスチレンが一度若干上がったほかは大きく値上がりすることはありませんでした。

コンテナ

当社のワンウェイ・フレコンの売上数量は、大幅増加だった前期から5.6%減少しました。大型ドライコンテナ用インナーバッグ「バルコン」は一部顧客との取引が終了した関係で減少しました。液体輸送用は、1,000ℓポリエチレンバッグ「エスキューブ」が微減、液体輸送用コンテナライナー「エスタンク」も前期から減少となりました。

製品紹介

エスキューブ

エスキューブとは、1,000リットル容量の折りたたみ式プラスチックコンテナと組み合わせることを目的に開発された、液体輸送用のワンウェイ内袋製品です。エスキューブは、本体フィルムを自社工場で製造し、クラス10,000の清浄度で保たれたクリーンルーム内で製袋加工を行い、お客様へと納品されます。食品から化成品など、様々な液体製品を扱う場面で導入可能であり、輸送効率や作業性の向上による合理化・省力化のご要望にお応えしてまいります。

◆製品の特徴

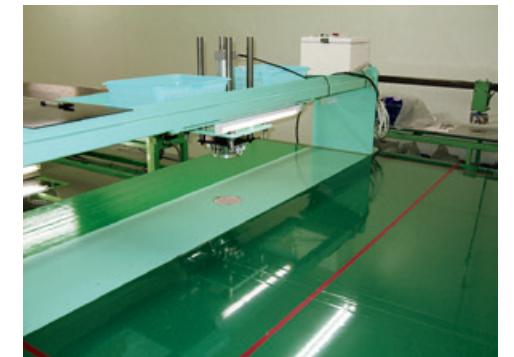
- ① 輸送効率・作業効率の向上
200リットルドラム缶などの輸送容器と比較して、輸送効率と作業効率が良く、ランニングコストの削減が期待できます。従来の1,000リットルコンテナ容器と比較しても、洗浄の手間が減り、繰り返し輸送において特に高い運用効果を発揮します。また、組み合わせる専用コンテナは軽量でハンドリング性に優れ、非力な方でも一人で組み立て・折り畳みの作業を実施することができます。
- ② 様々な液体に対応可能
醤油やソースなどの調味料、お酒や食用油などの食品用液体製品、シャンプーや化粧品などの化成品まで、さまざまな分野でのご使用が可能です。
- ③ 高い衛生品質
クラス10,000の清浄度で保たれたクリーンルーム内で製袋された内袋は、ワンウェイで使い切りのため安全で衛生的です。食品用など厳しい品質が要求されるお客様にも安心してお使いいただけます。

標準のポリエチレン製フィルム内袋に加えて、酸素バリアタイプの内袋もご用意しております。バリア内袋は品質を保持するために、食用油やソースなどの食品用として多くのご利用実績があります。

ご検討をいただく際にはデモ機の貸し出し等も行っており、実際にお使いいただくことでその利便性が評価され、近年数を伸ばしてきた当社製品のひとつとなります。



使用前の折り畳んだ状態



クリーンルーム内での加工



折り畳み式コンテナに装着して、液体を充填

トピックス

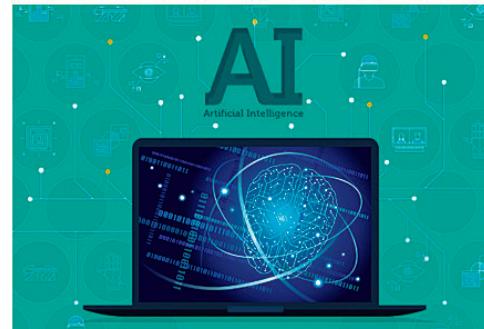
AI（人工知能）による外観検査の取組み

当社では、AI（人工知能）を用いたクラフト紙重袋外観検査の実用化に向け取組みを進めています。AIによって、紙重袋の表面外観の検査にとどまらず、立体構造や、糊付けの位置と量の適否なども検査の範囲に含めて自動で検査する構想です。即ち、折り込まれたり、接着されたりした内側の、従来であれば破袋することでしか確認できなかった箇所まで検査の対象とするものです。

現在は製品の外観検査は熟練の検査員が行っていますが、ヒトによる検査ではどうしても「検査漏れ」や「検査基準のブレ」が生じてしまいます。検査にAIを用いることで「漏れ」を無くし、「基準」を一律化して、「不良品の流出」を未然に防ぎ、顧客の信頼向上につなげることが目的です。

従来の機械を使った製品チェックの仕方では、想定される不良の特性を、項目ごと、センサーごとに逐一設定しなければならず、その手間が膨大となり、かつ想定していなかった不良は判定できないという致命的な欠陥がありました。しかし、近年のソフトウェア・ハードウェアの進化は目覚ましく、AIを使うことで、ヒトに頼らない、機械による検査が可能になっています。

将棋の名人をも破るほどに進歩したAIの一番の特長は、その学習機能にあります。過去の対局の膨大な棋譜を読み込ませることで、AIは将棋を自ら「学習」し、過去の記録にない打ち手に対して、学習したデータから柔

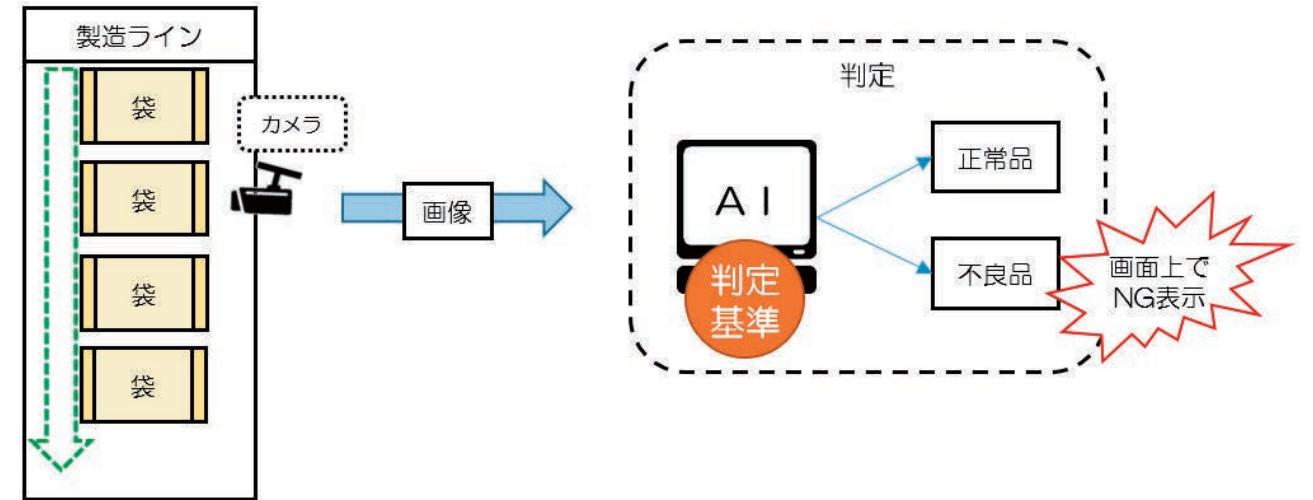


軟に対応できるようになります。

当社が導入しようとしているのもこれと同種のAIです。良品の製造過程を徹底して学習させることで、AIが製品の判定基準を策定します。この「基準」に基づいて、これまではヒトが見た目と感覚で判断していた、予め設定しておくことが難しい不良も含め、検査を行うのです。

紙重袋ライン上にカメラを設置し、カメラとAIをつないで製造時の写真を撮影、正常品を基準として学習させます。その後はこの基準を基にして、実際の製造途中にある画像についてリアルタイムで製品一つごとに良否を判定、画面に表示します。製造を通じて蓄積されたデータで判定基準を更新し、検査精度を更に高めていきます。

東京工場の底貼袋ラインでカメラ1台でのテストは既に完了しており、現在はカメラを複数にして検査ポイントを追加、AIによるトータル検査を完成させるべく取組んでいるところです。完成度を高めたいうえで、他のライン、他の工場へも順次水平展開を図っていきます。



会社概要 (2020年3月31日現在)

■ 設立

1935年12月20日

■ 資本金

6億4,050万円

■ 主要な事業内容

クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売

■ 主要な事業所

本社 〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町2番12号
電話 03(3269)5111

支店 大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)

工場 東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、
盛岡(岩手)、掛川(静岡)

子会社 九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、
山陰製袋工業(島根)、山陰パック(島根)、
昭友商事(東京)、タイ昭和パックス(タイ王国)

当社の株式の状況 (2020年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 13,450,000株
- 発行済株式の総数 4,450,000株
- 株主数 987名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社サンエー化研	846	19.1
新生紙パルプ商事株式会社	837	18.9
株式会社三菱UFJ銀行	135	3.0
特種東海製紙株式会社	130	2.9
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	102	2.3
株式会社みずほ銀行	80	1.8
農林中央金庫	75	1.7
株式会社鹿児島銀行	70	1.6
昭和パックス社員持株会	66	1.5
岡本圭介	50	1.1
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	50	1.1
王子ホールディングス株式会社	50	1.1
丸紅株式会社	50	1.1
みずほ信託銀行株式会社	50	1.1
明治安田生命保険相互会社	50	1.1
中越パルプ工業株式会社	50	1.1

- (注) 1. 持株比率は自己株式(9,961株)を控除して計算しております。
2. 損害保険ジャパン日本興亜(株)は、2020年4月1日に、損害保険ジャパン(株)に商号変更いたしました。

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
期末配当金支払 3月31日
株主確定日
中間配当金支払 9月30日
株主確定日
基準日 定時株主総会については、3月31日。その他
定款に定めがある場合のほか、必要があるときは
あらかじめ公告する一定の日。
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部
- お取扱窓口 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、
特別口座管理機関のお取扱店。
みずほ信託銀行
特別口座管理機関
お取扱店 フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)
- 未払配当金の
お支払 みずほ銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次のみとなります。)
- 単元株式数 100株
公告方法 電子公告により、当社ホームページに掲載。
ただし、事故その他やむを得ない事由により
電子公告によることができない場合は、日本
経済新聞に掲載。

役員 (取締役および監査役) (2020年6月26日現在)

- 代表取締役社長 大西 亮
専務取締役 飯崎 充 管理本部長
取締役 森 文男 生産本部長
取締役 野崎 和宏 営業本部長
取締役 小野寺香一 フィルム事業企画部長
取締役 渡 淳二 サッポロホールディングス(株)顧問
常勤監査役 望月健太郎
監査役 宮本貞彦 新生紙パルプ商事(株) 常勤監査役
監査役 櫻田武志 (株)サンエー化研 常務取締役

- ※渡 淳二氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※宮本貞彦氏および櫻田武志氏は、会社法第2条第16号に定める社外
監査役であります。

